

桜船会だより

三菱電機大船地区定年退職者の会

第 30 号

発行日 2013.4.17

発行者 桜 船 会

発行責任者 萩原大義



2013.02.28 湯河原町・幕山公園散策

桜船会創立 20 周年記念式典＋秋の懇親会事務局長
平成 24 年度春の屋外行事 湯河原町・幕山公園散策
ハートでつなぐ「桜船会」 創立 20 周年に思う

私の青春時代
忘却に向かって急ぐ心よ 全て美しいものは思い出の中にある

私のつぶやき
楽しい仲間にも再会して

私の小さな旅
Facebook はじめませんか
事務局だより・編集後記

福本行宏
富山勝巳
森 義昭
松本 亮
長谷川知治
武藤 正
中條光夫
伊藤善貞
原 正樹
編集班

桜船会も平成 5 年の設立以来 20 年の歳月を経て若者で言えば成人式にあたる「創立 20 周年記念式典」を平成 24 年 11 月 17 日（土）に情報総研第 2 棟大会議室において挙行了しました。

会長挨拶・ご来賓祝辞のあと、設立時にご尽力頂いた郷原重雄会員（第二代会長）の記念講話「桜船会設立時に思いを寄せて」をおうかがいし、発起人諸兄姉の当時のご苦勞に感謝するのみでした。

そのあとスライド「桜船会設立時に思いを寄せて」を鑑賞。藤本幹事の軽妙な「語り」口調での説明と併せて、創立以来の社会の移り変わり・大船地区事業所の変遷・情報総研の発展とともに歩んできた桜船会の 20 年の歴史の刻みがよく分かり、感慨ひとしおの想いをしました。

役員経験者、先輩会員諸兄姉、関係部門の方々の今日までのお力添えにより、盛大な記念式典をあげることが出来ましたことを大変有り難く思い、厚く御礼申し上げる次第です。

式典終了後、食堂にて祝賀会を開きました。

20 周年を祝うべく、槌音高く祝樽の鏡開きを行い、特別料理を囲みながら出席会員それぞれこれまでの自分史を語り合い、また 20 周年に向けての想いを寄せて賑やかに歓談いたしました。

□□□

▼20 周年記念式典



▼情報総研：井上博史氏・桜船会第二代会長：郷原重雄氏



桜船会創立 20 周年記念式典参加者（集合写真）



▼ 桜船会創立 20 周年記念式典参加者

木村允紀	森田 茂	飯田明夫	小倉基一	小宮龍夫	鈴木 豊	永井頼光	松本 亮	矢田雅敏
桜井貫智	米倉常男	池田秀行	小山内正文	小和口三郎	砂川幸雄	中野嘉博	丸山健一	矢地富士雄
櫻木幸恵	青木 功	石井 茂	小澤 晃	斉藤 淳	春原 猛	根本庄作	満生 忍	山崎 斉
佐藤秋雄	青木 尚	伊藤善貞	柏木 博	斉藤 学	高澤正男	橋本 秀	木戸部武士	山田壽郎
宗田修幸	青砥晴男	井上浅次郎	加藤幸男	坂本勝彦	高橋長一郎	廣川吉男	見留 宏	譲原長治
玉田幸吉	浅田三郎	井原芳之	菊池 満	坂山幸平	竹内秀義	福井正満	皆川良司	米倉五郎
富山勝巳	浅見武彦	上原武雄	木村 弘	佐藤菊男	中條光夫	福田家樹	武藤 正	蓬田 規
福本行宏	安達隼三	内田 稔	黒川勲夫	篠崎幸雄	立木武彦	堀内清美	茂垣 宏	渡辺清一
藤本孝信	安達宏美	遠藤 茂	黒柳孝志	菅井克男	角田三郎	前崎博務	望月竹郎	
丸屋 完	有村洋海	大山光雄	郷原重雄	鈴木朋美	角田清八	正木欣一	森 義昭	

前回の「桜船会」は、創立 20 周年記念の式典とパーティという形で開催されました。式典では萩原会長の挨拶、第 2 代会長・郷原さんの創立当時のお話、そして藤本幹事のスライドによる略史説明がありました。当日配布された「桜船会だより」20 周年記念号にも「桜船会の歩み」が特集記事として書かれてあり、たいへん感慨を深くいたしました。

萩原会長の話によれば、三菱電機の OB 会は、北は札幌、南は九州まで、29 の会があり、約 1 万人の会員とのことです。私は入社当時 7 年間お世話になった伊電経理 OB 会＝「水閘会」と約 20 年間に在籍した本社 OB 会＝「七七会」にも参加していますが、「桜船会」が最も充実しています。伊電と本社は年 1 回だけ。「桜船会」は、年 2 回の懇親会（内 1 回は総会と懇親会、もう 1 回はアトラクションと懇親会）の他、1 泊旅行と見学会やハイキングなどの日帰り行事が催され、さらに、年 2 回、OB 会の機関誌「桜船会だより」という印刷物を発行している。これほど充実している OB 会は他に例を見ません。「桜船会」は、全社 No.1、最高の OB 会と誇りに思っています。これも、ひとえに歴代会長をはじめ、幹事さん方の熱誠溢れるご尽力の賜物であり心から感謝申し上げます。



▲「桜船会」会旗 デザイン：友澤 久

「桜船会」の会旗は、桜の花びらがデザインされています。私は単純に会の名前をシンボライズしたデザインと思っていました。記念式典における藤本幹事のスライドによる説明で、花びらはハートの模様であり、5 枚の花びらは“ハートでつなぐ”「桜船会」という理念をデザインしたものであることを知りました。素晴らしい発想と感銘しました。このデザイ

ンは桜船会副会長をされた故・友澤 久さんの作品であることがスライドに映し出されてありました。友澤 久さんは、私が菱電印刷（現・三菱電機ドキュメンテックス）の社長時代、取締役企画デザイン部長として活躍してくれたパートナーです。

当時、菱電印刷の体質改善・経営改革のシンボル“MELGA”（MELCO ではなく、Multi・Electric・Leading を志向した Graphic Arts 会社にして）という表示は、友澤 久さんが私の経営方針を体して作ってくれたものです。定年後、共に「桜船会」の会員として親交を深めていましたが、不治の病魔に襲われ、2009 年に亡くなりました。まことに痛惜に堪えません。ご冥福をお祈りいたします。

“ハートでつなぐ”「桜船会」----- いいですね。

「桜船会だより」20 周年記念号の表紙は 20 枚の花びらで飾られています。そして、藤本幹事はスライドで 30 の花びらを映し出し、次の 30 周年に向けて、「ハートでつないでいきましょう」と結ばれました。式典に続いてパーティでは、まさに、「ハートでつなぐ仲間の交流会」で、私はいつものように各テーブルを廻り、乾杯し、お互いの健康を祝し合い、祈り合い、しみじみと「これが人生というものだ」と、喜びにひたりました。



ありがたいことです。

20 年前、60 代の私共は、今や 80 代。次の 30 周年の時は、90 代に入ることになります。昨年卒寿を迎えられ、式典ではよどみないスピーチをされた最長老の郷原重雄さんにあやかって、「桜船会」のモットー“イキイキ・ライフ”を皆さまとハートでつなぎ、これからの 10 年を歩んでいこうという思いを深くしました。 □□□

私は昭和 38 年に船電に入社し、フェリーコアに配属されたがフェライト事業の相電移管とともに営業部業務課製品管理課に異動になりました。その後、昭和 52 年に管球製造部蛍光灯工作課に転勤しましたが、管球製造部が別会社になり、螢工課から座間営業所へ出向し約 10 年頑張つて無事定年を迎えました。振り返ると、船電の大きな波の中に揺られて過ごしてきたように思います。

さて、今思えば船電最後の職場であった螢工課は、従来の職場とは打って変わり、一週間交代の二交代勤務でした。早番・遅番勤務に慣れることと、仕事に慣れることなど、いろいろと苦労はありましたが、MAP40、MAP20、11 工場と仕事を覚え、螢工課の人たちとも親しくなりました。みんなのお蔭でなんとか溶け込んで行けたように思います。

私は釣りが好きなので、螢工課メンバーと一緒に相模川へ、ハヤ、ヤマベ、アユなど釣りに行ったり、毎月一回釣り船を仕立てて、アジ、サバ釣りを楽しみました。そうこうしていたら、いつも一緒に飲み会や旅行をしているグループに縁があって、入れてもらうことができ、昭和 54 年頃より、小旅行に参加するようになりました。

このグループに入ってみて解ったことですが全員が酒豪でした。私も好きでビールを飲みますがグループの人の酒量には驚きました。

ある小旅行の帰りの新幹線では、乗るや否や直ぐに食堂車の窓際に陣取り缶ビールを注文し片っ端から開け、空き缶を 40 本近く窓際に並べて喜んだこともあります。ビュッフェのチーフと仲よくなり、小田原駅で降りるときには食堂車専用ドアから下ろさせてもらったこともありました。このグループと動く時、チョット「悪」な思い出が尽きません。

まさかと思っていたのですが、管球製造部が別会社化されることになり、平成 4 年に管球製造部の掛川移管が現実となりました。この時、仲間の早期退職や掛川への転勤などあって、この楽しいメンバーのグループもバラバラになり解散したように思いました。私は、平成 15 年定年とともに即「桜船会」に入会させていただきました。入会当時には、かつての職場の仲間はいなかったのですが、次々と桜船会に入会して、ついに十数年ぶりにグループが復活し

たのです。楽しいグループは自然消滅したかに思えたのですが、「一時中断」だったのです。

現在も仕事をされている仲間もいるので、今ではこの桜船会の行事は、私たち全員が集まる大事な機会になりました。



▲2012.11.17 桜船会 20 周年懇親会にて
(よく食べ、良く飲み、良く喋る)



▲左が筆者

桜船会では、雑談しかつ楽しく飲み、お開き後意気投合した他のメンバーも加わって大勢でカラオケに行き歌と酒を楽しみ、また桜船会で会える日を楽しみにサヨナラするようになりました。また桜船会の旅行では、このグループがいつもバスの後部座席を 2 列位占拠し楽しい酒を飲んでいる「チョット悪な、のんべ〜」仲間です。

このように当時の仲間が集まれて、そして楽しく酒が飲める機会でもある桜船会、かつての職場のように移管されることがない「桜船会」にこれからも楽しく参加したいと思います。 □□□

私は昭和 38 年（1963 年）に、当時の大船製作所の前に設立された商品研究所に配属になりました。それ以降途中で 1 年だけ静岡に単身赴任しましたが、後は定年退職まで約 35 年間研究所の建物の中で勤務しました。定年後、三菱電機の関連会社等で約 10 年東京で働きましたが、会社生活のほとんどを鎌倉市大船で過ごしたことになります。

大船は私の人生にとって格別の場所であります。

忘却し難いいろいろな美しい思い出を振り返ってみたいと思います。

照心寮の思い出

商研勤務の先輩方と違って、私は船電勤務の方が多く入居されている照心寮に入りました。場所は常楽寺近くの鎌倉街道から少し山側に入った所で、会社まで徒歩 10 分程度で行けるのが魅力の一つでした。当時はまだタイムレコーダーがありましたがいつもぎりぎり入門で記録はほとんど 8:00 でした。寮長は船電の方で、現桜船会の萩原会長も務めておられました。また、照心寮の隣に管理者用の家族寮があり、そこに私が配属になりました豪快な係長がいらして、忘年会には職場全員がそのお宅に集結し夜遅くまで飲み議論したものでした。ある夜、その上司から「長谷川、これから飲みに行こう」と言われ、横浜で深夜遅くまで飲んでタクシーで帰りました。翌朝は二日酔と寝不足で大変でしたが、頑張って何時ものように 8:00 に会社に入りました。実験室で仕事に就こうとした時、その上司がやって来て「よく出て来たな」との一言。今で言えば「あっぱれ」の感じでした。この時、二日酔だろうと夜更かしだろうと、そうした時はなおのこと「這ってでも会社に行く」ことの大切さを学んだと思いました。

大船たそがれ時の思い出

当時（昭和 40 前半～）大船には暖簾を搔き分けてふらっと入れる小さな飲み屋さんが多くありました。そうした中、行き付けのお店で社内の先輩・同僚・後輩や近隣の方々と親交を深めました。“龍”というお店では「ドラゴンズオープン」と銘打ってゴルフコンペが展開されました。また、“宝寿し”という寿司屋さんでは、“シャリーズ”という名（寿司はシャリが命）のソフトボールチームを設立し、鎌倉の強豪チームと戦いました。今これらのお店は無くなりましたが、当時から営々として続い

ている名店“きりたんぼ”には特に冬の季節、美味しいきりたんぼ・のっぺ汁を食べに訪れます。こうした会社生活外の 5 時からの世界で社内外の多くの方々と知合えたことが、今でも私の宝物となっています。

商研バレーボール部の思い出

入社間もなく商研の建屋の横に体育館が竣工されましたが、この“こけら落とし”の時に急遽商研でチームを結成することになり、多分背の高い順に編成されて幸か不幸か私もその一人に入りました。これが商研バレー部誕生でした。船電・鎌電チームとは比較にならないレベルでしたが下手は下手なりに練習に励みました。鎌倉市及び神奈川県実業団連盟に加入し、横浜や川崎の大会会場に臨みました。その間、先輩格の船電の田邊さん・宮崎さん・前桜船会会長の澤野さんに優しく指導頂きましたことを思い起こします。コート中の 9 人が何とかレシーブし、それをセッターが懸命にトスし、最後にアタッカーが万感の思いで攻撃するチームプレーの魅力、“身を捨ててこそ浮かぶ瀬がある” 献身・滅私の精神性、これらバレーボールのもつ素晴らしさに遭遇しました。練習・試合の後は皆で良く飲み、議論し相互のコミュニケーションを深めました。そうした中、女子チームも編成され、合同での練習・懇親と楽しい時間を共有しました。そうした中、チームメイト同士のカップルが多く誕生したことも嬉しい出来事でした。



大船・鎌倉の文化人の方々との邂逅

<大船在住の笠智衆様と>

茅ヶ崎ゴルフ倶楽部での出来事ですが、1 組前で大船在住の笠智衆さんがプレーされているのに気が付き

ました。我々の同伴プレー者の中に笠さんと同じ熊本出身者がいた関係でお話するきっかけが出来、一緒にお風呂に入りました。その時の笠さんの越中ふんどし姿を思い出します。帰り車で笠さんの自宅までお送りし、お茶を頂きながら小津安二郎監督のこと、主演された『東京物語』のこと等をいろいろとお聞かせ頂いたことを鮮明に憶えております。

<鎌倉在住の横山隆一様と>

上記した大船のお店以外に鎌倉のさる小料理屋さんにも行っていましたが、その店に漫画家の横山先生が時折来られていました関係で先生とお近付きになりました。市役所前の先生宅の大きな庭での春の桜の会、秋の芋煮会等々何かと理由を付けての飲み会へのお誘いを受けました。お宅の一角に作られた居酒屋で月に1回ぐらいのペースでお邪魔し楽しい時間を過ごしました。また、高知出身の先生が高知市の「名誉市民」称号を受けられた時、その祝賀パーティーに参加しましたが、その折当社の高知工場をご視察頂きました。実は先生の奥様とわが社の進藤社長とが遠縁の関係であることを奥様から教えられていたからです。写真は当時相談役でした進藤様が春の桜の会に来られた時のものです。平成10年に放映されたNHKスペシャル「遊ぼうよフクちゃん」によくお邪魔した仲間と一緒にほんの少し顔を出しているのもそうした背景からです。心優しい先生と邂逅出来たことを本当に幸運だったと思っています。生涯忘れられない思い出です。



横山先生ご夫妻、進藤元社長と

以上が大船に係る忘れ難い思い出の数々です。

まさに、「忘却に向かって急ぐな心よ。全て美しいものは大船の中にある。」です。 □□□

1. 国を愛せ



今の我々の生活は、国家・国民の意識、家族意識も薄く親子の絆も弱い。周りの人との接触も少なく孤独となり家族を殺め、国家国旗を敬うことを忘れることになる。家族、地域、国を愛する必要がある。

2. エネルギー問題

太陽エネルギーや風力は、自然条件で発電量が変化し使用するには高価な蓄電装置が必要となる。この対策として古くから使用されている揚水発電がある。電力に余裕のある時に水を高所の貯水池にポンプでくみ上げ、必要時に放水発電する方式で小山の多い日本では有用と思う。

原子力発電では使用済み燃料を原子炉容器の上部に収納している。最終処理が必要で政府は秋田県にその処理場を予定しているが住民の反対で進捗せず困っている。私はこの対策として孤島の利用を提案する。また、この島は建設に多くの反対がある原子力発電所、東北地方の瓦礫集積地としての応用も考えられる。

3. 金融について

政府と日銀が緊密に関連し、金の流量を増しデフレを克服し、政府投資や個人投資を増し、インフレ化を図っている。この大きな金の流れと共に金利0を改めて個人の生活を助け、タンス預金を有効使用することを考えて欲しいものである。

4. 婦人の活躍

最近、世界で婦人の国家首脳が増加し、我が国でも各分野で女性の活躍が目立ってきた。これは家事・育児などに使用する道具の進歩や社会システムの変化で余裕ができ、女性特有の繊細、緻密、忍耐強さなどの特徴が、社会に受け入れられたものと考えられ、今後の活路が期待できます。

また、エネルギー源としてシェールオイル／ガスやシベリアのガスパイプラインなど、多様化に向けたプロジェクトにも参加すべきではないか。 □□□

昭和 36 年 10 月船電に配属されてから 51 年、本社に転勤してから 36 年の歳月が流れました。

当時、船電の正門の左脇に、しばしば入り込んでお茶を飲ませて貰った小さな守衛室がありました。工場を 2 本の幹線道路があるのは今と同じですがその頃は、道路を歩いているといろいろな匂いと様々な動きがありました。

蛍光灯安定器工場では焼ける匂い、蛍光物質工場では鼻を付く匂い、塗装工場では目がちかちか、酸化鉄の赤錆色のフェライト工場（ここでは極々小さなフェライトコアを斜め十字に編んだ電子計算機のメモリーも作っていました）、オイルショック後の不況の中で蛍光灯器具の組立工場では定時後に管理職のラインが出来、慣れない手付きで組み立てをしましたっけ。

そして酢酸ブチルの鼻と眼が「しわしわ」する匂い、直管のランプをグルリと曲げて円形ランプにするベンディングマシン、暑くて、暑くて、塩の丸薬を飲みながら作業する蛍光ランプ工場。その先の製品倉庫は当時先端の自動倉庫になりました。そうそう、磁気選別機とか偏光板の工場もありました。

門の前には和風の好日荘、良く飲みましたね。若葉寮、白百合寮、道路を挟んで商品研究所。お客様の大事な見学コースの松竹撮影所。

次から次へと思い出が蘇ります。時間の観念が無くなって全てが平面になって紡ぎだされてくるようです。そして、もっとも思い出すのが「人のこと」。A さん、B さん、C さん～Z さん。これはキリがありません。

三菱電機には本社の菱風会合唱団、鎌倉製作所を初め各場所に合唱団がありました。そして、三菱電機大船混声合唱団が生まれました。昼休みの僅かな時間の練習、そして合宿、いろいろな職場から仲間が集まりました。声を合わせて楽しかった。

配属された 5 人で懸命に貯金をし、共有で中古自動車の黒いヒルマンを購入、工場に乗り付けるのが恥ずかしく、商研の先の未だ舗装のされてない路上に駐車していました。昭和 39 年頃、工場ですべてだったと思います。プラグの間隙をヤスリで削ったり、キャブレターを分解洗浄したり、楽しかった。

ゴルフも始まりのころで、コンペをやろうと OHGC (One Hundred Golf Club) が生まれました。

まずは 1 ラウンド 100 を切ることを目標として命名されたのです。今の大船中央病院の駐車場のあたりにアプローチの出来る練習場を皆で鋤鋤をふるって作りましたっけ。当時は皆下手で、でも楽しかった。

コンピューターの活用が始まった頃でした。工場はフレクソライターと云う紙テープを媒体とする製造データの作成から始まり、昭和 45 年に MELCOM3100 という電子計算機の導入でシステム化が一気に進みました。時間外の連続で、対象の職場の方々を含めて大変でしたが、皆一生懸命で楽しかった。

昨年 11 月 17 日桜船会の秋の懇親会が情報技術総合研究所で開催され、久しぶりに参加させていただきました。もう、私など分かっていただけないだろうと思っていましたが、時間が経つにつれて覚えていてくださる人がおられ、懐かしい、懐かしい出会いがありました。

桜船会だよりの編集班の方から原稿依頼があり、ニコニコとした笑顔にひきずられ、つい引受けてしまいました。ある方から当時の建物が未だあるとお聞きし、まさかと思いながら存在するのを確かめた時、諸々の想いが湧き、思い出を綴ろうと決めました。正門を入った左手の真っ白のサイコロ状の建物、3 階は電子計算室がありました。



▲現在は健康増進センター、管理 G、MD ライフが使用

当時、人からなんの仕事をしているのか問われた時、「世の中を明るくする仕事」と答えていました。23 才から 38 才の青春を過ごしました。

そして、今や、情報技術総合研究所と三菱電機照明株式会社。みんな進化して戻ってきました。温故知新！ □□□

私の“いきいきライフ”は那須をベースにした旅を楽しむことです。



今年は、2年前に一度訪れた松島を計画しました。昨年の東北大震災で被害にあい、現在は復興してきていることを知って、少しでも復興の役に立ちたいとの思いからです。



那須を朝 7 時に出発、東北自動車道に乗り松島に到着、駐車場へ車を入れ、少し歩を進めるとすぐに五堂の見える広場に出る、まずは海上より散策のための遊覧船に乗り松島湾内を一周する。遊覧船内での説明では、津波はこれら大小の島々が緩衝材となり、松島では他の場所より津波による被害は少なく済んだとのこと。そのため 1 年ほどで観光客の再受け入れ態勢ができ、現在に至ること、ただし海中には瓦礫がまだ残りカキの養殖は 4 割程度の回復とのこと、確かに養殖いかだの枚数はまだまばらで少ないが、着実に一歩ずつ復興している実感を持って海上からの散策を終えることができました。

五堂はまだ修繕中で見学することができないため、市場へ行くとかなり多くの観光客がいて、買い物を楽しんでいました。私たちも海産物等を購入し

ました。国道 45 号線沿いのみやげ物店周辺では歩行者も多く、かなり活気付いていました。ただし一部みやげ物店は、店が再開できない所もあり、津波にあった水位の外壁が変色してそのまま、中だけは整理され、何も無い状況、一般の宅地は更地の所もかなりあり、津波のつめ跡の恐ろしさをまざまざと見せつけられました。

瑞巖寺の方は鳥居の所まで津波が押し寄せたが、その先は大丈夫で、住民の方はこの先へ非難して助かったようです。鳥居内参道は、両側に杉の大木が何ごともなかったように薄暗く等間隔で整然と並んでいました。

▼震災前、雪の中の五堂



▼瑞巖寺



▲瑞巖寺の杉



▲大内宿を望む

昼食は海鮮料理を食し、那須の宿泊所まで戻り近くの温泉へ行って本日の疲れを癒し一日を終えた。次の日は、一日のんびりと森を散歩したり、本を読みあさり、夕方からバーベキューで最後の夜を過ごしました。

帰りには、途中回り道をして観光地の大内宿まで行き、150mほどの両側に昔ながらの茅葺屋根で民芸品や特産物を販売しているお店を見て、一周して大船へ帰ってきました。

今回は松島がメインの旅でしたが、この度の大震災で災害にあわれた松島を含む各方面の方々には、この場をお借りいたしまして、心よりお見舞い申し上げますと共に、少しでも早い復興をお祈り申し上げます。

□□□

三菱電機デザイン研究所を 2011 年に退職し、現在は株式会社アイプラネットに勤務しています。アイプラネットは三菱電機の広告宣伝のハウスエージェンシーです。長い間携わってきた製品デザインからコミュニケーションのデザインへと、やり方は変わっても相変わらずデザインを担当させて頂いています。昨年、8 月に中堅クラスの若い社員と一緒に、会社の公式 Facebook ページを立ち上げました。会社からの公式な情報発信として、どんなコンテンツを作っていくか、読者がどんな情報なら面白く読んでくれるか、それが会社の事業にどうプラスになっていくかなどを、約半年間検討しました。このプロジェクトは私にとってとても新鮮で、また、まさに新しいジャンルの業務で、若い方々のパワーをもらいながら楽しんで進めることができました。

一方、私は個人的にも Facebook のアカウントを持っていて、月 2~3 回程度の情報発信をしています。ちょっとした旅行の中の 1 ショットとか、今日の富士山はきれいだったとか、自分の育てた蘭の花が咲いたとか、写真を撮ってそれに関連する本当にとりめもないことを、自分の視点で書いて投稿しています。それらを見て、大学時代の友人や会社の元同僚やかつてプロジェクトを一緒にやったことのある方など、登録している「友達」が、[いいね!]と誉めてくれたり、率直なコメントをしてくれたりします。また、友達の友達が同じ高校の同窓生だったりして、意外なところでつながりがあって新たに友達の輪が広がっていきます。メールよりも手軽に、また、複数の方と情報共有しながら楽しむことができます。



写真は、2012 年 3 月 24 日に自宅から、たまたま撮ったダイヤモンド富士ですが、こういう決定的な瞬間を、たくさんの方に見て頂きたいという気持ちで、投稿のモチベーションをあげていきます。

Facebook で感じるのは、最近の話や自分が気になっている情報を共有できるので、友人

と離れているという感じがしないことで、あたかも現役時代の友人たちと話している感覚になることです。インターネットの中のバーチャルな「場」ですが、リアルな世界と違って、「好きな時に好きな情報を自分から取りに行く」というのが、大変使いやすい理由かも知れません。

自分の撮った写真のコメントを頂いたり、[いいね!]を頂くことが、毎日チェックしようというモチベーションの向上につながります。また、友人の投稿した写真や記事を読んで、コメントしたり、[いいね!]をしたりします。時間を気にせずに、あるいは、時間差を旨く使いながらの軽いコミュニケーションは、なかなか楽しいものです。当然ながら、最低限守らなければならないルールやコメントに関する責任も自己規制も必要です。

加齢にともない自分の参加するコミュニティがどんどん狭くなっていきますが、適度な範囲のコミュニティを維持して行くことができます。皆さんも是非、ご自分のアカウントを作ってお仲間と楽しんで下さい。インターネットの環境さえあれば無料ですし、スマートフォンや携帯電話でも使うことができます。

話は会社の公式 Facebook に戻りますが、ここでは「西館十三男」くん、と言うキャラクターを使って、「会社の事業に関わる情報発信」だけでなく、「会社のある青山一丁目駅界隈の気になる話題」などを読み物として情報発信しています。

青山という地名の由来や江戸時代の古地図を引用して、当時の姿を文章で再現するなど、若い方の才能に刺激を受けながら、週 2~5 コンテンツを情報発信しています。当然、会社からの情報発信ですので、どんな情報を書いても良いわけではなく、情報発信の在り方を決め、守るべき「セキュリティ・ポリシー」も制定しました。引き続き編集には関わりますので、十三男くんが繰り広げる活躍をご覧頂ければ幸いです。

URL は

<http://www.facebook.com/iPLANET.Inc>

□□□



前日の冷たい雨も上がり、春を思わせる暖かな快晴に恵まれた 2 月 28 日(木)朝 10 時、東海道線・湯河原駅改札出口に、36 名の参加者が集合した。昭和 1 桁生まれも含めて、久しぶりの再会にどの顔にもこやかである。萩原会長の挨拶の後、今回の目的地「湯河原町・幕山公園」に向けて歩き始めた。

街中の道を真鶴方向に 1.5 km 程歩き、東海道線と新幹線のガードを潜る。「鍛冶屋」から新崎川に沿った山間の緩やかな登りとなった道をゆっくりとさらに 30 分程歩き幕山公園入口に昼前に到着した。湯河原駅から約 3.5 km の歩行距離であった。

幕山公園は、標高 626m の幕山の麓の新崎川に沿った自然景観の豊かな風致公園として整備され、紅白梅約 4,000 本が植えられている。今年は 2 月 9 日(土)から 3 月 10 日(日)の予定で『梅の宴』が開催されており、入園券(¥200)を幹事がまとめて購入して参加者に配布した。梅林下の広場前の石碑前で集合写真を撮った後、自由行動となり、夫々の仲間では昼食や懇談、観梅と園内散策を楽しんでいた。

暖かな好天で大勢の人が入園し、軽食や土産物の売店も賑わっていた。休憩出来るあづまやもいくつかあり、花より団子ならぬ酒で盛り上がっているグループも多かった。

梅林が満開時には幕山の麓一帯が紅白の絨毯のようになるが、今年の開花は 2 週間遅れということで、全体的には 4~5 分咲きの観であったが、満開の紅梅や白梅もあり、暖かな日差しの下、十分に楽しめた。

帰りは湯河原駅までバスも多数出ていたが、元気よく歩いて帰る仲間も大勢いた。また湯河原温泉で汗を流して帰るという仲間もいました。

次回の屋外行事には、あなたも参加しませんか。

▼湯河原・幕山公園散策参加者

市川洋子	丸屋 完	篠崎幸雄	宮崎賢治
木村允紀	森田 茂	高橋久幸	山崎 斉
桜井貫智	浅見武彦	竹内秀義	譲原長治
佐藤秋雄	安達隼蔵	中條光夫	米倉五郎
宗田修幸	遠藤 茂	立木武彦	若林正男
玉田幸吉	大山光雄	角田三郎	若林美枝子
富山勝巳	柏木 博	中野嘉博	
萩原大義	黒川勲夫	橋本 秀	
福本行宏	黒柳孝志	堀内清美	
藤本孝信	斉藤 淳	水野克彦	



平成 25 年度 桜船会行事予定

実施時期	行事名称	行事内容	前年度の記録
平成25年4月17日	会報第30号発行	シリーズ「いきいきライフ」 桜船会創立20周年報告	H24.4.20 会報第28号発行
5月27日	第21回総会、懇親会	総会：情報総研大会議室 懇親会：事務更生棟2階	H24.5.27 総会出席者143名 懇親会出席者147名
9月下旬	バス旅行	近隣の名所・旧跡などへ 日帰りまたは一泊で旅行	H24.9.26 参加者61名 草津温泉と志賀高原散策
10月下旬	会報第31号発行	会員投稿記事 ほか	H24.11.17 会報第29号発行 (桜船会創立20周年記念号)
11月中旬	秋の懇親会	旧交を温める宴会	H24.11.17 出席者68名 (桜船会20周年記念)
平成26年3月上旬	春の野外行事・見学会	近郊へのハイキング、諸施設の 訪問見学など	H25.2.28 参加者36名 湯河原町・幕山公園散策
3月下旬	花見会	三菱電機「桜まつり」に参加	H24.4.7

事務局だより

1. 会員の動向：2013-3-1 現在 316 名

2. 近隣 OB 会定期情報交換会

2月13日に、桜船会(316名)、湘南ダイヤクラブ(324名)及びMPCクラブ(292名)の3OB会の役員が出席し、年間事業の内容紹介と、参加者状況、費用、問題点、改善点等の情報交換し、今後の活動、新事業等について意見交換を行いました。共通的なことは、新会員の確保、行事のマンネリ化の克服、多くの会員が参加し易い行事の開催等が話題となりました。当会からは、萩原会長、市川副会長、福本事務局長が参加しました。

3. 三菱電機ソシオテックウインドオーケストラ 第20回定期演奏会

鎌倉芸術館で1月27日(日)の午後2時からソシオテックウインドオーケストラの第20回定期演奏会が開催されました。桜船会会員の皆様にもご案内しましたが、今回は「20回」記念演奏会で従来の2部構成を1部増やした3部構成でした。第1部は吹奏楽のオリジナル曲第2部は行進曲およびポップスの軽快なリズム感のある曲、第3部が今回のメインで、ムングルスキーの組曲「展覧会の絵」で、30分

にわたる大曲でした。吹奏楽によるクラシック音楽を優雅に、また、ユーモラスに迫力ある演奏を充分堪能しました。(報告：福田一進)

編集後記

昨年度は桜船会創立20周年を迎え、会員皆様のご協力により20周年記念会誌を無事発刊することができました。当第30号は来る30周年に向かう第1号会誌となります。

今回は旧船電、研究所を含め幅広い会員の方から寄稿して頂きました。それぞれの趣味に合わせて多彩な生活を送られていることに感激いたしました。今後も色々と新しい展開を考えていきたいと思えます。よろしくご協力をお願いいたします。(木村)

原

稿

募

集

編集責任者 藤本孝信

編集委員 木村允紀

桜井貫智

佐藤秋雄

印刷所

(株) トーカイ